

奈良・藤原京跡

- 1 所在地 奈良県橿原市高殿町
 - 2 調査期間 第六二次 一九八九年(平1)七月～一〇月
 - 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部
 - 4 調査担当者 代表 牛川喜幸
 - 5 遺跡の種類 都城跡
 - 6 遺跡の年代 七世紀末～八世紀初頭
 - 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
調査地は藤原京右京七条一坊西北坪の東北部に当たり、調査は宅地造成に伴う事前調査として実施した。調査面積は二五〇〇㎡である。
- 検出した遺構は、古墳時代、藤原宮期直前から藤原宮期、藤原宮期以後に大別される。
- 古墳時代の遺構には西北流する斜行溝三条、堅穴住居五棟、土坑八基がある。藤原宮直前から藤原宮期の遺構には、掘立柱建物八棟、掘立柱塀一〇条、素掘溝三条、井戸二基、土坑一五基などがある。
- また藤原宮期以後の遺構には一四世紀代の小溝、近世末以後の水抜き暗渠・野井戸などがある。
- 木簡は藤原宮期に属する井戸SE六五〇〇から二四点が出土した

が、全て削屑である。SE六五〇〇は底に円礫を詰め、その上に横板組の井戸枠をのせる。堆積土中からは、木簡の他に飛鳥V(七世紀末から八世紀初頭)の土器や木製品などが出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) □□ 年六十三

160

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査概報20』(一九九〇年)

(橋本義則)